

言葉を理解する 文章理解

【この課題の趣旨説明】

「わかる」と「つこと」「わからない」ということは同時に起る。「わからない」と判断できるということは、「わからない」ということが「わかる」のである。「わからない」ということがわかると、わからないことに対してもアプローチ（理解しようとすること）ができる。

しかし、「わからない」ことがわからないと、何もアプローチができず、「わかったつもり」になる。自分は何でもわかつていると思い込むと、傲慢になり、人をバカにする。これでは立派な人間になれない。

または、何がわからないのかわからないと、自分は劣った人間だと思い込み、卑屈になり、本来の自分の姿を周りに認めてもらえない。

「わかること」「わからないこと」をはっきりする。「どこまでわかり、どこからわからないのか」はっきりさせることにより、外界の対象物をはつきりさせ、自分の内面をはつきりさせることができる。そして外界物にアプローチすることができる。

「今までわからなかつたことがわかるようになる」「意味が変わる」ことが勉強したということである。

【目標】
「言葉を理解する」の文章を理解し、「外延的定義」と「内包的定義」を高校一年生にわかる表現で説明できるようになる。

【課題】

教科書 P219 L5
P220 L6（このプリントの裏にあります）までの文章に関して、自分のわからない語表現、文を調べ、どんな手段を使っても自分でわからない（自分の言葉で説明できない）部分に関するでは、赤ペンで傍線を引く。

調べたこと、理解したこと、自分の言葉で言い換えたことはプリントのあいている部分にどんどん書き込むこと。（鉛筆可）

【注意】

「わかった」ということは、「自分の言葉で説明できた」ということであり、辞書で調べた表現がわからなければ、それも調べなければならぬ。とにかく、全ての表現を自分の言葉で言い換えることができるということである。辞書で調べて、そこに書いてあった表現を書いて、わかった気にならないこと。とことん自分でわかるかどうかを内省し、つきつめること。

【例】
P219
L1 L4

言葉あるいは文の表す意味は、文の表現からだけでは決定できず、場面や文脈という、より広い世界の中で理解され、解釈される」とは当然であるが、言葉とそれが指し示すものとの間の関係について考えてみよう。簡単にするために、まず外界に存在する具体的なものについて考えよう。